

Tell me, maestro

マエストロに聞く

末延則子

SUENOBU Noriko

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
グループ研究・知財薬事センター担当 執行役員/
マルチプルインテリジェンスリサーチセンター所長



肌の奥の研究から 化粧品へ

化粧品のオーダーメイド化により、それぞれの肌に合った化粧品が求められ、多くの人が自分の肌質を意識するようになった。さらに肌質の改善に加え、アンチエイジングを化粧品に求める傾向から、それに対応する化粧品が次々と開発されている。わが国において史上初のシワ改善薬用化粧品を世に送り出したポーラ・オルビスホールディングスの末延則子氏に、肌質と化粧品をテーマにお話をうかがった。

化粧品開発で重要な 「肌質」

化粧品開発において、「肌質」をどのように捉えられていますか。

一般的に「肌質」といわれるものには、角層の水分量や油分量、そしてその分布により普通肌、乾燥肌、脂性肌、脂性乾燥肌(いわゆる混合肌)の分類や、感受度で分類する考えがあります。弊社でも同様に肌のタイプを分類し、それぞれの肌質にあわせた感触や処方調整して化粧品を開発しています。

その特徴的な商品として、1989年に国内で初めてオーダーメイド化粧品のブランドを発売しました。1,800万件という膨大な数の肌デー

タに基づいてお客様の肌の状態を分析し、感触も成分も最適な化粧品をお選びすることをコンセプトとしています。やはり化粧品は、その方の肌質に合った製品をお使いいただくことが重要ですから、たとえば敏感肌の方であれば、外からの刺激を化粧品でどうブロックしていくか、あるいは、肌の状態を化粧品でどのように整えれば刺激に負けない肌質が作れるか、そういう観点で肌質に着目した開発を進めています。また、同じ製品でも、お客様の肌質によって使用感が違いますので、感触面についても、肌質のタイプ別に研究することが重要だと思っています。

消費者の肌質に対する 意識の高まり

消費者の肌質に対する意識の変化については、どのようにお感じですか。

花粉やPM2.5など、最近では外からの刺激を受ける機会が多く、社会的にも話題になっているためか、そういった外的環境から自分の肌を守るようとする意識と肌質に対する関心は大変高まっています。また、そうした意識の高まりの結果、最近ではご自分を「敏感肌」だと感じているお客様が増えている印象があります。そのような方のなかには、肌質に対する意識が高い分、敏感肌の改善とあわせて「美白」や「シワ」などの機能も併せもつ化粧品を望む方も多